企業紹介　魅力発見 業界は今

コンサルタンツ部門若手技術者座談会
「農業土木コンサルタントへの入社と将来の夢」

（一社）農業土木事業協会事務局

（一社）農業土木事業協会機関誌 JAGREE は，本協会に所属する会員企業に対する理解の促進とイメージ向上をこれまでより一層努めたいと考えております。

今回，「農業土木コンサルタントへの入社と将来の夢」と題して農業土木コンサルタントの若手技術者が考える業界の魅力について話していただきました。

当協会は，平成 32 年 2 月に協会創立 50 周年を迎えます。このため，50 周年記念事業の一つとして，「農業土木分野における人材の確保育成」をテーマとした活動を進めることとしています。その観点からも，本座談会が一つの糸口になることを期待するものです。

【座談会概要】

日時　平成 30 年 8 月 27 日（月）14：00 ～ 17：00

場所　農業土木会館　2 階Ａ会議室

出席者

（1）座長（コンサルタンツ部門幹事長）

松浦　正一　　ＮＴＣコンサルタンツ（株）専務取締役　技術管理本部長　九州支社長

（2）若手出席者

茂木　悠海　　若鈴コンサルタンツ（株）　本社技術 2 部　2 年目

秋田　竜志　　内外エンジニアリング（株）　東京支社技術部　2 年目

矢部　恵理子　ＮＴＣコンサルタンツ（株）　開発事業部環境資源部　3 年目

菅谷　佳史　　（株）ジルコ　東北支社技術部　4 年目

松原　峻太　　ＮＴＣコンサルタンツ（株）　中部支社技術部　3 年目

矢野　聡恵　　サンスイコンサルタント（株）　本社技術 2 部　3 年目

影浦　弘樹　　（株）三祐コンサルタンツ　本社総合技術第 1 部　5 年目

１．座長あいさつ

座長　農業土木コンサルタントに長く働いている一人として，コンサルタンツ技術者は自信と誇りを持って仕事をしている集団であると思います。合理的に経済的にいいものをつくり，農家のために，また国民のために頑張ってきました。

座長　松浦 氏

一方で，これまで頑張ってきたことを十分に発信できていませんでした。しかし，我々の努力が広く理解されなければ業界全体や技術の発展はないと思っています。

今日は皆さんの現在の状況や将来の夢をお聞きしながら，皆さんが考える農業土木コンサルタントの今，そして魅力について発信できたらと思っています。自由闊達にお話しいただきたいと考えています。よろしくお願いします。

２．自己紹介

座長　それではまず皆さんの自己紹介を兼ねて，主に学生時代の専攻内容とか研究テーマだとか，会社に入ってからどんな業務を担当したかというようなことを，かいつまんでお聞かせください。

茂木　大学では地滑りをテーマに研究をしておりまして，地すべり対策のため，地下水を排除する集水井の経年劣化について研究をしていました。現在，技術部に所属しパイプラインや開水路の実施設計を上司と一緒に頑張っています。

秋田　大学のときは，ＴＯＰモデルという流出解析モデルを使って卒論をやっていたんですが，入社してすぐに就いた業務が排水解析業務で，自分がやってきたことなので入りやすい業務であったのが結構，去年の印象としてありました。今は排水解析業務と排水機場に対する機能診断業務の仕事をしています。

矢部　研究テーマとしては，窒素やリンの物質動態モデルを棚田で再現するときの課題を研究していました。入社１～２年目は設計などをしていましたが，今現在，農振計画と事業評価の仕事をしています。どちらも面白味があって楽しんで仕事をしています。

矢部 氏

菅谷　研究室は圃場機械の研究室で，共分散構造解析を用いて，農業機械が水稲生産量に与える影響を研究していました。入社して３年間は設計の基本を教わり，水路やため池の調査や実施設計をしていました。今年から東北支社に異動し，頭首工や水路の設計に携わっています。

影浦　私，一番年上で今５年目になります。構造関連の研究室を出てましてロックフィル材の劣化指標に関係する研究をしていました。会社の仕事としては，１年目から５年目までずっとダムの機能診断調査だったり，耐震関係の仕事をやっています。

矢野　大学のときは，松山にある河川の瀬切れの拡幅問題について研究をしていました。会社に入ってからは，昨年度は頭首工と樋門の設計，今年は樋門の設計のほか，パイプラインの設計にも関わっています。

松原　　水質の分野で，肥料として使われる窒素の下流への影響が問題になっているというこ

とで，水田の窒素除去機能の研究をしていました。会社に入ってからは，ちょっと分野が異なるんですけど，2年目までは群馬でため池の耐震設計，実施設計を，今年から中部支社に所属し，ため池の耐震設計に携わっています。

3．農業土木コンサルタントに入社した動機

座長　農業土木を学んだ皆さんには，一般的には，コンサルの他，ゼネコンへ行く，また公務員試験を受けるという選択肢もあったと思います。なぜコンサルタントを選んだのか聞かせてください。

松原　大学で学んだ農業土木を生かせる仕事がしたいと考えていました。就活にはあまり積極的ではなく，何となく公務員を志望していました。農業農村整備の仕事についてよく理解できていなかったのですね。会社説明会を聞いて初めて，公務員，コンサルタント，ゼネコンの役割を知り，設計をやりたいとの気持ちから，コンサルタントを志望しようという思いになりました。

松原 氏

矢野　高校生のころから農業にかかわる仕事がしたいと思い農学部を目指していました。農業土木の分野を知ったのは，2年目のコース選択の時が初めてでした。

就活を始めた段階では，安定志向で公務員を志望していました。しかし，公務員の説明とかに行く段階で，自分のしたいことは何なのかなというのをもう一度考える機会があり，ものづくりみたいなことがしたいなというのを漠然と考え始めて，先生にも相談して農業土木のコンサルタントになろうと思いました。今の会社を選んだのは，会社説明会で親近感を覚えたからです。

影浦　農業土木にかかわることがしたくて，農業土木のコースを選びました。授業で愛知用水について学び，そのダムや水路の建設事業のスケールの大きさに感動し，また農家の皆さんに思ったとおりに配水して貢献したいとも思い，コンサルタントを選びました。今の会社を選んだのは，会社説明会で仕事内容を熱く説明されているところで気持ちが揺さぶられたからです。

菅谷　皆さんと同じで，就職活動をする中で，大学で学んだ農業土木に関する業種に就職したいと考えていました。実践的な技術を身に付けられるんじゃないかなと，漠然とその時はそういう思いでコンサルタントを志望しました。当初はこの仕事が国民のために役立っているとあまり強く認識していなかったんですけど，会社の説明会や社内の研修とかというのを通して，今は農業農村整備の大切さを実感しています。

矢部　もともと実家のほうで自給用の畑をやってまして，そのころから，農業に関わる仕事がしたいと考えていました。ちょうど高校のとき TPP の話が出てきまして，その話を高校の先生が熱く語ってて農業をなんとかしなければとの意識が芽生え，農業の関係の大学に向かいました。また，モノづくりにも興味があったので，農業土木を学びました。

コンサルタントやゼネコン，公務員の話を大学の先輩から聞いてたら，コンサルタントは，ただ請け負った仕事をするのではなく，技術的な提案をする大切な役割をもっているんだなと思い，そうした技術力のある人間になりたいと憧れ，コンサルタントを目指すようになりました。

秋田　砂漠緑化とか水理実験とか多種多様な実験ができることが面白そうだと思って大学に入り，最初の学科の説明会で初めて農業土木という名前がわかりました。

秋田 氏

せっかく学んだ知識が使える職業に就きたいと考え，公務員，ゼネコン，コンサル，それぞれの仕事について考えましたが，自分で設計とか計算とかをやるのであればコンサルがいいと思い，大学の先生からも「君はコンサル向きだ」と言われたこともきっかけとなりました。

茂木　動物も好き，あと自然も好きということで，森林環境とか生態学が学べる大学の学科に入学しました。コース選択の時に森林コースに入るよりも農業土木コースに入ったほうが技術力で人に貢献できると考え，農業土木を選びました。

茂木 氏

私も，最初は結婚しても復帰できるし，出産しても有給が取りやすいなど，公務員もいいかなと考えていました。でも，あまりその時私，安定したくなくて，もうちょっと転々としてたいという気持ちがあって，自分の学んだ農業土木が生かせる仕事って何かと考えたときに，コンサルに在籍していた先生の話を伺う中で，今歩いてる道とか，水が流れてる水路とか，こういうのって，設計できるのってかっこいいなと思って，農業土木のコンサルタントに入ろうと思いました。今の会社を選んだのは，大学の会社説明会に来てくれたからです。

4．入社して感じたこと

座長　実際に入社されて，忙しさや職場の雰囲気，また教育プログラムなど，入社前のイメージとの違いを感じることはありましたか。

菅谷 氏

菅谷　入社前，友達から忙しいと聞かされていて，確かに年度末は忙しいと感じています。でもその忙しい時期が終われば少し時間があるというか，そういうときは外部の研修会などに参加する機会もあります。

職場の雰囲気は，会社の規模が小さいので上司との距離も近く話しやすい環境です。

社員教育なんですけど，仕事自体，勉強してやっていかないとやっていけないかなと感じており，OJT が重要かと思っています，上司や先輩が丁寧に教えてくださるので，得るものがあると思います。

矢部　やはり年度末は忙しいイメージがありますが，先輩や上司の話を聞き，仕事の進め方でこうすればその忙しさも緩和され，効率的に仕事を進められると学んで，大学で聞いていたほどまで忙しいというイメージはないですね。

職場の環境も，休憩のときとか話もしますし，仕事するときも相談しやすいような，いい環境だと思います。社員教育については，上司や先輩が丁寧に教えていただけるのはもちろんですが，自分でも独学でやっていかなきゃいけない部分もあります。また，大事にされているかどうかについていえば，大事にされていると感じています。

秋田　年度末も忙しいですが，受注期も打ち合わせの時期とかがかぶったりして，忙しく感じます。職場の雰囲気は，結構，一番いいんじゃないかなと言えるほどで，技術のトップの方も自分の意見を取り入れてくれることもあり，

そこは本当にいいなと思っています。

社員の教育なんですが，僕自身は実際に手を動かさないと頭に入らないタイプなので，まあ，OJT の形態は自分に合っているかなと思います。

茂木　入社前は忙しいだろうなという気持ちでいっぱいでしたが，会社説明会の時に，残業を減らす対策に取り組んでいることを聞いていましたので，激務に追われるというようなことは心配していませんでした。入社後は，残業削減のための取組みがされていたので，想像していたとおりかなと。

上司の方との距離も近くすぐに聞きにいける雰囲気です。上司について業務をしているので，技術的にもどんどん力が付いていってるような実感はあります。

若手を中心としたキャリアアップの研修にも力を入れて取り組んでいるので，大切にされていると感じております。

松原　繁忙期はもちろん忙しいのですが，ノー残業デー，ゴールデンウィークや夏休みなんかもしっかり取らせていただいたり，いろいろフォローをしていただいていると感じています。

職場では，上司と隣席でほぼマンツーマンでいろいろ教えていただいて，分からないことがあったらすぐに聞いて，いろいろと丁寧に教えていただいていました。職場のみなさんは，仕事と関係ないところでも面白い話をたくさん聞けたりして，とてもいい雰囲気だと思っています。

矢野　忙しさについては，すごく周りに脅されて覚悟して入社しました。しかし，めちゃくちゃ忙しいという感じはなく，確かに繁忙期は忙しいですが，残業がない時期もあり入社前のイメージは払拭されてる感じです。

矢野 氏

職場は，いろんな人と仲良くできる機会がすごくある会社だなと思うので，それに関係して，社員教育とかも自分の上司にも聞きやすいですし。上司がマンツーマンで，今やってる仕事に対しても教えてくださり，また，自分がやってない仕事だったりしても，さまざまな人から教えていただくこともあって，すごく恵まれた環境にいるなと感じています。

影浦　今５年目ですが，入社当初と２年目ぐらいは，イメージ以上にものすごく忙しかったです。ただ，働き方改革の進展で，２年前ぐらいから急激に残業が減りました。これはおそらく業界全体が，残業が良くないということになっていて，土曜日の発注者への対応も今では全くなくなりました。

職場の雰囲気として，今，毎年若い社員が増えているので，ちょっとずつ年配の方も元気になっていくというか，指導の声だとか議論の声だとかで職場内は明るい感じです。飲み会も楽しくやってますし，また，自転車サークルだとか，フットサルのスポーツだとかもやったりしてるというので，雰囲気はいいと思います。

社員教育も私の代からちょっとずつ研修が生まれてきて，私たちの意見というか，そういったところを聞いて，ちょっとずつ良くなっていってる，私からしたらうらやましい限りです。

＊＊

【各社の残業縮減対策のまとめ；出席者の発言から】

◇会社として，①ノー残業デー，② 22 時以降は会社に残らない，③長時間労働する場合は上司の承認を取るという取組みを行う。

◇完全に週休２日ということになり，作業できる時間が減ったので，その中でいかに効率的に，いかに同じ品質のものをつくっていくかを上司と考える時間が増えた。上司も自分もなるべく早く帰るために今日はここまでやる，この作業をここまでに必ず終えるというスケジュール管理をしっかりする。

◇部内で工程会議を積極的に行い，仕事の分担を割り振り，この人だけが仕事で大変になるというのを避けて，効率的にできるような取組みを行う。

◇ノー残業デーの実施。どうしたら残業を減らせるのかということを，みんなで考える場や取組みがある。

◇原則週休２日だが，現状はそうなっていない。改善を図るため，自分の仕事は自分でやる，人の仕事は人の仕事のようなスタイルはまずいと再考している。チームプレーで残業時間も改善していこうとしている。

◇建コンで決めているノー残業デー。その日には会社のパソコンが止まる。

◇上司が朝礼やノー残業デーの声かけをする。

◇ノー残業デーもしつつ，仕事をちゃんと工期までに品質を保ってやるスケジュール管理をしっかりする。スケジュール管理の能力が足りない若手には上司がフォロー，相談に乗る。

◇フレックス制度を導入し，10 時から 15 時までをコアタイムとして，それ以外は自分の仕事の進行状況に応じて出社時間を遅らせたり早く帰ったりと，時間を効率的に使おうという意識を持つ。

◇①残業の申請を掲示物に張り出す，②標語をみんなで考える，③「５時に帰ろうウィーク」を作る，④その取組みが良かったかどうかを評価するような取組みなどの試行。

＊＊

５．異動の経験

座長　短い期間の中でもこの中に異動された方がいるんですが，戸惑いだとか，新しいところに移ってからどうだったかというようなところをお聞かせいただけますか。

矢部　大分から開発事業部，東京に異動するとなって，大分では設計，東京ですと計画がメインなんですが，最初はやはり，やっていけるかなという不安もあり，ちょっと戸惑いもありましたが，私自体は設計も計画も両方ともできるような技術者になりたいというふうに考えていて，考え方を変えてみればすごく大きなチャンスだと感じまして，それからはむしろ楽しみで，今，実際，仕事のほうも楽しませてもらって取り組んでいる状態です。

菅谷　３年間は東京にいたんですけど，非常に人が多くて，通勤も大変でした。

今年仙台へ異動しました。東北のほうに少し興味があったので，いいタイミングで転勤になったというのがあります。まだ２カ月ぐらいしか経ってないんですけど，楽しみです。

松原　地元の群馬で２年間働いたんですけれども，最初は地元で働きたいという思いがあって，規模的には小さな地元の事務所で，働いてるうちに全国展開している会社の中で大きなところで働きたいなという思いが強くなってきまして，本社に行きたいという希望を出しました。まだちょっと慣れてないところもあるんですけど，学べることは人が多いほうが多いなというのは感じています。

６．仕事の楽しさ，将来したい仕事

座長　現在の仕事が楽しいかどうか，将来したい仕事について，まだわからないかもしれませんが，聞かせてください。

茂木　繁忙期を過ぎるとやりがいとか達成感はすごかったなと思いました。みんな一体となってチームでがんばったなという充実感もありました。400 年の歴史を持つ農業用水の改修などに携わっていると，私も 400 年の歴史を守っていると考えたらめちゃめちゃ楽しいなという気分でやっています。

将来どういう仕事がしたいかまだあまり決まっていませんが，いろんな人に説明して，自信を持って自分の技術力をアピールできるような，そういう技術士になりたいなと考えています。

秋田　排水計算で，ちょっとずつ数字を変えていって，ベストな値を見つけたときはうれしいです。去年，ちょっとしたことですが，写真を見やすく工夫して提出したら，本当に小さいことなんですけど発注者の方から「これ見やすいね」とぼそっと言ってくれて，やっぱりお客さんに言われるとうれしさがだいぶ違います。

将来的には，もっと経験を積んだり，知識を身に付けてからですが，設計基準の仕事がしたいなと思っています。あとは，発注者というよりも，受益を受ける農家さんが，これができて良かった，というものが作れるようになりたいと思っています。

矢部　仕事で報告書を作り上げて納品したときの達成感もありますし，自分で勉強して考えたことを上司に相談して認められたり，ちゃんと自分の意見が言えた時，自分がやってきたこと，学んできたことがちゃんと生かされるんだなという実感があったときはやっぱり楽しい，もっと学びたいという意欲がわきます。

将来の話なんですけど，実施設計の業務だったり，計画関係の業務だったり，いろんな業務に携わりたいなというふうに考えています。将来像としては，自分で考えを持って意見を言えたり，農家さんがこの水路，こういうふうになってて良かったとか，そういうふうに貢献できる技術力の高い技術者になりたいというふうに考えています

菅谷　弊社の場合は東京から全国各地に出張に行くので，各地の見聞を広められてすごく楽しいなと感じています。あとはまだ経験していないのですが，自分が設計した構造物が地図に載るというのはやりがいだなと感じています。近い将来ということでは，実施設計の仕事でいろいろな交渉を経験してみたいと感じています。

影浦 氏

影浦　皆さんと同じように納品の時は達成感を感じます。また発注者も同じチームとして了承を得ながら仕事を進めて行くことを楽しく感じます。やはり菅谷さんと同じように，上の人が「ここ，自分が設計したところだよ」と言う，その熱い思いに駆られて入社してきてるので，

やはり自分が設計で手掛けたものを残したいというのが気持ちとしてあるので，実施設計だとか法人対応というのを今後やっていきたいなと思っています。

将来的には，農業土木の仕事は食料生産の基盤であることを，自分でも社会に広めていきたいと思います。

矢野　上司や先輩から教えていただくことが初めてのこととかもたくさんあって，すごく新鮮な気持ちでずっと，仕事をしてることが多くて，まだまだ今学ぶことがすごく楽しくて。今，上司に教えてもらって，自分で答えを出してみて，「これどうですか」と上司に見せたときに「あ，いいね」と言ってもらえるその流れが，一番自分の中で楽しいなとすごく感じて仕事をしています。3年目なので，自分で気づいてこの仕事をやっておきました，というふうになっていけたらと思っています。将来は，この人に任せたら大丈夫みたいな専門的な技術力のある人になりたいと考えています。

松原　入社して3年目で仕事の楽しさが年々増しているところです。2年目くらいから自分で考えて作業をすることが増えて，役所に自分から説明する機会もあったので，それをやってきて相手も理解してくれてというのは，やりがいを感じました。

将来については，群馬県出身なので，地元に貢献したいとの思いが強いですが，今のままでは，まだ立派に業務をこなせないので，いろいろなところで経験を積んで，地元に帰って立派に仕事ができたらいいなというのを思っています。

7．農業農村工学技術ってどういうふうなもの？

座長　簡単に一言でいいので，農業農村工学技術ってどういうふうにとらえられているかというようなことを，一言ずつ教えていただけますか。

茂木　農業土木と言うと，最終的な施設としてのエンドユーザー，農家さんだけかなと思いつつも，そのご飯を食べてるのはその地域住民なので，もっともっと，農業土木コンサルの仕事は農家さんだけじゃなくて，地域住民，いろんな人に知られていっても全然いいと思っています。

秋田　そうですね。農業農村事業は食料を作るだけじゃなくて，地域環境も形成しているという実感は今まだありません。どうしても今自分のやってる業務というふうに見てしまっているので，全体的な目ではまだ見えていかないなというのを今思いました。

矢部　農業農村工学って，環境を形成してるわけでして，その環境というのは，動物とか自然保護への影響がありますし，一方で豪雨でため池が決壊するというように，防災関係とか，ただ農業だけじゃなくて，人と本当に密接にかかわっているものなんだろうなと思います。ただ，それがうまく伝わってないと言いますか，そういう状態なんだろうなという印象があります。

菅谷　大学の説明会とかに行ったときに，全体のこの部分をやってるとか説明すると，学生は，自分が学んでることをこういうところで生かせると分かれば，もっと興味を持ってもらえるのかなと思います。

影浦　もっと私たち農業土木のコンサルタントが，一般の方にメリットがありますというのを伝えていくことで，昔の，農業土木は残業も多いし大変だみたいな，そういったイメージを払拭していけるようになればいいかなと思います。

矢野　仕事をしている上で，行政と一般の方の真ん中に今，設計者としているというのを感じています。 ため池のハザードマップを作ってるときは，ため池は災害の元凶であったりとか，ため池の整備をするときには自然生物，希少種とかがいるのにどうして壊すんだとか。そういう面では悪になっているものを作っているかもしれない。でも，そのため池を整備しないと私たちが食べていくお米を作れないわけであって，本当に中間的な立場，いろんな面から見たら中間的な立場で仕事をしていると思います。

松原　実際に役所があって，施工のゼネコンがあって，役所が設計とかしちゃえばコンサルタンツはなくてもいいような，そういう立ち位置になってるとは思うんですけど，実際，コンサルタンツが高い技術力を持って，今の農村整備，社会を良くしていこうという中で大事な部分でもある。難しいんですけど，頑張っていきたいなと思います。

８．座長感想：

座長　皆さんの話を聞いて，入社の動機や職場環境に対する思いなど，非常にしっかりしていると感心しました。また，我々が入社したころと比べて格段と成長していると感じました。さらに，農業土木コンサルタントの仕事に希望を持っていただいていることで，将来も非常に心強いと思います。

本日の皆さんの意見は，オブザーバーの方にも聞いていただいたので，社員教育の充実や働き方改革の取組みに反映させたいと思います。

この座談会の目的の一つは，農業土木コンサルタントの魅力を発信することでしたが，伝えるということは本当に難しい。相手が聞く耳を持たなければ伝わらないと思います。

ＩＴ分野では，外部からの働きかけに反応を返すようなシステムや動作モードのことをパッシブであるといいます。受け手をパッシブなモードにするためには，理解されなければならない，すなわち「伝わる」ことが重要です。コミュニケーションで最も大事なのは，相手に「伝わる」ことを話すことです。

皆さんは若いので，小さくまとまらず，まず得意な技術を一つ持ち，それをベースにして幅広くチャレンジしていただきたいと思います。また，失敗の責任は上司が取りますので，失敗を恐れずがむしゃらに励んでいただきたいと思います。皆さんありがとうございました。

以上

下段左から，若手技術者の矢部氏，茂木氏，座長の松浦氏，若手技術者の矢野氏
中段左から，若手技術者の菅谷氏，秋田氏，松原氏，影浦氏，オブザーバーの下舞氏
上段左から，オブザーバーの大久保氏，藤井氏，伊藤氏，宮本氏，藤田氏，上野氏